

| | | |
|----|----|-----------|
| 学番 | 40 | 県立正徳館高等学校 |
|----|----|-----------|

令和7年度学校自己評価(報告)

| 学校運営計画 | | | |
|---|---|--|----|
| 学校運営方針 | 生徒一人ひとりを大切にすることを念頭に置き、小規模校の利点を生かしたきめ細かな教育活動を推進することで、生徒の進路実現と地域の信頼獲得を目指す。 | | |
| 三つの方針(スクール・ポリシー) | | | |
| 育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー) | ①基礎学力の定着と向上により、学ぶ意義を意識して学習する力を育成します。 ②規律ある学校生活を送る中で、責任ある行動をとる姿勢を育成します。 ③自己有用感を高めて、主体的に進路選択をする姿勢を育成します。 ④仲間と協力しながら、積極的に問題を解決する姿勢を育成します。 ⑤地域の特色やその魅力を理解し、地域の発展に貢献する心を育成します。 | | |
| 教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー) | ①少人数授業での協働的な学びやICTの活用により、個を伸ばす授業を展開します。 ②生徒との対話を重視し、保護者・外部機関等と協力しながら生徒を支援します。 ③生徒の主体的な進路選択につながる体験を取り入れた学習を行います。 ④生徒一人ひとりが自己の役割を自覚し、自己に対する肯定的な評価に気付くことができる行事運営を行います。 ⑤地域の人的・物的資源を取り入れ、地域と連携したキャリア教育を実施します。 | | |
| 入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー) | ①豊かな人間性や社会性を身に付けようとする生徒 ②自分の可能性を信じて何事にもチャレンジする生徒 ③地域への興味・関心をもって主体的に学ぶ生徒 | | |
| 昨年度の成果と課題 | 年度の重点目標 | 具体的目標 | |
| <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 検定費補助制度を利用して英語検定3級合格者が出た。 進路ガイダンス等様々なセミナーや講演会の実施により生徒の自己啓発に努めてきており、成果につながっている。 生徒指導の指導基準など、決めたことについては全教職員で協力して実施できていた。 タブレットやPCを使った学習やプレゼンテーションが定着し、生徒のスキルが向上した。 評価方法について、年度初めに趣旨を確認し、それに基づいて実施できた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 検定試験や模擬試験の案内と、検定試験の検定料補助について、積極的に周知する必要がある。 ICT活用については、機器の効果的な活用方法について検討することが課題である。 評価方法について、年度初めに趣旨を確認する必要がある。 「無断での遅刻をゼロにする」については家庭環境に左右されるところもあり、今後検討していくことが必要な事項である。 業務内容について、担当部署での検討と協議を行い、教職員全体での情報共有をより効果的に行う機会を増やす必要がある。 | 基礎学力の向上を図り、自信を持たせ、自主的・主体的な学習意欲を向上させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 学習習慣を定着させる。 課題等の提出率を100%とする。 成績不振者に対する指導を充実させる。 わかりやすい授業を展開することにより基礎学力を定着させる。 | |
| | 規律ある生活態度と責任ある行動姿勢を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> 生活時間を厳守させる。 あいさつ、返事、入退室時の礼儀作法を徹底させる。 服装、頭髪をきちんとさせる。 身の周りの整理整頓、清掃を徹底させる。 教育相談を充実させ、いじめの未然防止、早期発見に努める。 | |
| | 進路指導を充実させ、適切な進路希望を実現させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 体験的学習を通じて、自己理解に努めさせる。 進学希望者に対する小論文・作文指導、面接指導を充実させる。 就職内定率を100%にする。 進路について考える機会を増やす。 | |
| 重点目標 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 |
| 基礎学力の向上を図り、自信を持たせ、自主的・主体的な学習意欲を向上させる。 | 学習習慣を定着させる。 | 各種検定の受検を積極的に呼びかける。 | B |
| | | 毎朝、朝学習(10分間)を実施し、基礎学力の定着を図る。 | A |
| | | 定期的にノート・プリント等の課題を提出させ、繰り返し学習させる。 | A |
| | | 小テスト等を実施し、学習習慣の定着を図る。 | A |
| | 課題等の提出率を100%とする。 | 朝学習中の校内巡回を行うとともに、取組状況を確認し、全ての生徒が朝学習に取り組むように指導を行う。 | B |
| | | 担任と教科担当との連携を密にし、提出を呼びかける。 | A |
| | | 担任と保護者の連携を密にし、情報を共有する。 | A |
| | | 提出期限を決め、提出できない生徒に対しては繰り返し指導を行う。 | A |
| | 成績不振者に対する指導を充実させる。 | 提出物を課題点として評価する。 | A |
| | | 定期的に課題を与え、生徒の理解度を把握した上で必要に応じた指導を行うことで基礎学力の向上を図る。 | A |
| わかりやすい授業を展開することにより基礎学力を定着させる。 | 毎学期後に成績不振者に対して補習を実施し、基礎学力の向上を図る。 | A | |
| | 基礎的な内容の学習を繰り返し行い、基礎学力の定着を図る。 | A | |
| | 通常の授業内容との関連性を踏まえ、朝学習と小テストを実施する。 | A | |

| 重点目標 | 具体的目標 | 具体的方策 | | | |
|------------------------------|---|---|---|------|---|
| 規律ある生活態度と責任ある行動姿勢を育成する。 | 生活時間を厳守させる。 | 無断での遅刻をゼロにする。 | B | A | A |
| | | 授業でのチャイムスタート、チャイムエンドを徹底させる。 | A | | |
| | | 集会等での集合時間を厳守させる。 | A | | |
| | | 授業前の準備をさせる。 | B | | |
| | あいさつ、返事、入退室時の礼儀作法を徹底させる。 | SHR及び授業の開始時、終了時の挨拶指導を徹底させる。 | A | A | |
| | | 返事をしっかりとさせる。 | A | | |
| | | 教務室などの入室指導を徹底させる。 | A | | |
| | | 外来者に対する挨拶指導を行う。 | A | | |
| | 服装、頭髪をきちんとさせる。 | 授業中、休み時間、放課後に関わらず常に制服を正しく着用するよう指導する。 | A | A | |
| | | 違反を見つけたら見逃さず、その場ですぐ指導を行う。 | A | | |
| | | 定期的に服装・頭髪検査を行う。 | A | | |
| | | 生徒手帳の読み合わせを行い基準を確認する。 | A | | |
| | 身の周りの整理整頓、清掃を徹底させる。 | 机上など身の周りの整理整頓を徹底させる。 | A | A | |
| | | 定期考査時には、適宜私物を持ち帰らせる。 | A | | |
| | | ゴミの分別を徹底させる。 | A | | |
| | | 正しく清掃ができるよう指導する。 | A | | |
| 教育相談を充実させ、いじめの未然防止、早期発見に努める。 | 生徒の様子に注視し、細かに声がけをし、生徒の発するサインの的確な把握に努める。 | A | A | | |
| | いじめについての調査、教育相談アンケートをそれぞれ3回実施し、生徒に寄り添った教育相談を実施する。 | A | | | |
| | 生徒理解研修会を実施し、生徒についての情報を職員で共有し、生徒理解を充実させる。 | A | | | |
| | バッテリーテストM2+を年1回実施し、クラスや生徒の実態について適切に理解する。 | A | | | |
| 進路指導を充実させ、適切な進路希望を実現させる。 | 体験的学習を通じて、自己理解を深め、進路選択に生かす。 | 進路ガイダンスや進路講演会を実施する。 | A | A | |
| | | 基礎力診断テストを実施する。 | A | | |
| | | 企業・上級学校見学を実施する。 | B | | |
| | | インターンシップを通して働くことについて考えさせる。 | A | | |
| | | 社会人準備セミナーを通して社会人としての自覚を持たせる。 | A | | |
| | | 進路の手引きを作成する。 | A | | |
| | 進学希望者に対する受験対策指導を充実させる。 | 模擬試験を計画・実施する。 | A | A | |
| | | 小論文や面接指導、進学補習などを計画・実施する。 | A | | |
| | | 進学に関する様々な情報を充実させる。 | A | | |
| | 就職希望者の内定率を100%にする。 | 校内就職ガイダンスや進路面談を行い、就職への意識を高める。 | A | A | |
| | | 就職セミナーを計画・実施する。 | A | | |
| | | 面接指導を立案・実施する。 | A | | |
| | 進路について考える機会を増やす。 | 年2回進路希望調査を行う。 | A | A | |
| 進路便りを発行する。 | | A | | | |
| 本年度の成果と課題 | 【成果】 | ・チャイムと同時に挨拶を行うよう、教員も心がけたことにより、生徒も時間を意識できるようになった。 ・面談や各種アンケート等を通じて、生徒の様子をきめ細かく把握することができた。 ・検定費補助制度を利用して今年度2名英語検定に挑戦し、準2級、3級に合格した。(昨年度、3級に1名合格) ・タブレットやPCを使った学習やプレゼンテーションが定着し、生徒のスキルが向上している。 | | 総合評価 | |
| | 【課題】 | ・返事を徹底させることで、人とのコミュニケーション力をもう少し向上させたい。 ・「無断での遅刻をゼロにする」については家庭環境に左右するところもあり、今後検討していくことが必要な事項である。 ・進路保障のための家庭学習習慣の定着。 | | A | |